

# 東山花だより

(題字は元同盟委員長 故 北村徳太郎氏)

2011年



発行人・大和田 浩二 発行所・YMCA東山荘

四二一〇〇二四 静岡県御殿場市東山一〇五二

電話 〇五五〇(八三)一一三三

ファックス 〇五五〇(八三)一一三八



「富士山頂火口上空に現れた“彩雲” 右のピークが日本最高所・剣ヶ峰」

写真：白鳥 裕之

一さるのつぶやきへ

## 夕陽の風

4

東山荘所長  
大和田 浩二

梅雨の終わりの東山荘は、たびたび深い霧に覆われ、高い木々の上から白いペールが舞い降りてくるようにあたりを包み込むかと思えば、突然吹いてきた風に渦を巻いて散らされて行く、といった光景がこちらで繰り返されて行きます。

この繰り返しですが東山荘の豊かな草木を育み、今まさに目にしみるような緑にまつまれた静寂の中で、やがて荘内にこだまする子どもたちの歓声や歌声、芝生の上をゆっくりと散歩するお年寄りや、ボールゲームに夢中になる若者があちこちに見られる夏を間もなく迎えようとしています。

自然はとてつもない猛威をふるい、時として人間の生活を破壊してしまうような怖い魔物ですが、また一方で私たちの気持ちをゆっくりとなごませ、傷ついた心と体をいやしてくれる存在でもあります。

宮古市のYMCAボランティアセンターに派遣された東山荘職員の報告や数々のニュースから、現地のあまりの惨状にすすべも無い無力さを感じるのみの自分でありました。しかし、たびたびの地震にも大きな被害なく保たれている東山荘は、いまこそ心と体の癒しの場として、ここに人々を迎え入れ、新しい活力を得て再びそれぞれの日常生活に立ち返る足場としての役目が果たせるとの確信を強くしつつあります。

七月には福島からの親子のキャンプを始めとして、夏以降にも数々の被災地からの子どもや大人、高齢者の受け入れプログラムが東山荘で行われようとしています。

一人でも多くの方が、東山荘で心の疲れを癒し、新しい仲間やこれからの生きかた、自然と共に歩む活力を得ていただけたなら、この上も無い幸いです。今もつらい状況の中にある方々に、大きな希望がもたらされますよう、心よりお祈りいたします。

## プログラム通信

早春からの主催プログラムは予定通りに開催することができました。

震災直後で一時は中止案も出た「おやこ自然キャンプ」は、世の中が不安と恐怖でいっぱいの時だからこそ開催してほしいという声に励まされて、規模を縮小し実施しました。

子ども達が自然の中で、泥んこになり満面の笑顔を弾けさせのびのびと遊ぶ姿に、大人の強張った心が解放されていくようでした。不安感に押し潰されそうな時、また心配事で頭がいっぱいになった時、思い切った自然の中へ出かけ体中で遊ぶ時間は大人にも子どもにとっても、とても大切だと思いを強くしました。

一番身近な人と温かい気持ちを送り合い、元気の輪を広げよう！それがやがて、きっと被災された皆さんの所にも届くと信じて、今後も楽しくプログラムを開催していきます。



春霞の富士山と大きな空の下、人工物はほとんど目に入らない「勝又さんの田んぼ」で御殿場特産のとうもろこしを収穫させてもらいました♪初めて食べた焼き芋の味は甘〜い！！（写真上）



千本浜で貝殻探し。このひと時こそが宝物です。（写真左）

冠雪の富士山を仰ぎながら不浄況の清掃活動。よく見てくださいます。みんな満足です。（写真右）



真直ぐに前を見つめて急勾配を立ち漕ぎ（写真上）

大人も興奮！夜のフランドール、匂い立つような夜間のコブシの下で、強い向かい風。新緑の中を力走！（写真左）



慈雨の森でお弁当♪静かで平和なひと時を分かち合いました。（写真右）

花は咲き、初音の湖の畔、沿道の人達からの声援にペダルを踏む足も軽くなります。（写真下）



静かな浜で水切りに興じる子ども達。寄り道のおかげで、お天気が変わります。（写真左）



## 主催プログラムのこあんない

### ●こどもチャリ登山キャンプ

「東山荘から富士山頂往復」  
日程 8月15日(月)～19日(金)

対象 「こども自然キャンプ」に参加経験があり、自転車(変速機付)に乗り慣れている小学2年生～中学3年生  
(※家庭用ジュニアリッター同時募集)

参加費 38,000円



登山道の途中、こども達の元気な声と大人の笑顔が響きます(写真下)

### ●おとな富士登山キャンプ

「のんびり楽しく富士山登頂」  
日程 9月2日(金)～4日(日)

対象 「富士山」に一度は登ってみたいけど、きつそうだから...、或いは二度登ったけど、もう懲り懲り...とお思いの、18歳以上の方。(年齢に上限はありません) 18歳未満の方のご同伴も可。お問い合わせください。

参加費 24,000円



ゆっくり登山、ゆったりスケジュール。景色が素晴らしい登り方で、5合目からは頂まで同じペースを歩きます。

### ●こども通足キャンプ(仮称)

日程 10月8日(土)～10日(月・祝)

●秋のこども自然キャンプ  
日程 10月22日(土)～23日(日)



ヤマドリカブト  
ワマトリソウ  
野生のラズベリー

### お申し込み・お問い合わせ 資料のご請求は...

日本YMCA同盟 東山荘  
〒412-0024 静岡県御殿場市東山1052  
TEL 0550-83-1133  
FAX 0550-83-1138  
E-mail: tozanso@ymcajapan.org  
ホームページ  
http://www.ymcajapan.org/tozanso/

## さるのつぶやき

毎夏、多くのグループ、団体の方々を富士山頂までご案内することもあり、私の登頂回数も三百数十回に及びますが、その頂に立つ度に眼前に広がる山頂火口の大きさと火の山としての荒々しさ、迫力に圧倒されます。その昔、ここは富士山で最も神聖な場所とされ「大内院」と呼ばれていました。  
また山頂火口をとりまく8つの峰々を巡る「おはちめぐり」は1周3km程ですが、大迫力の景観や眺望、信仰の山としての歴史など見所は尽きず、2時間以上かかります。そして、その峰々のうちのひとつ大日岳はその昔、火口を眼下に遙拝し、賽銭を投げ入れる特別な場所でした。  
写真はこの大日岳に立った時、偶然山頂火口上空に現れた「彩雲」です。彩雲は太陽の近くに薄いベールのような雲がある時、その雲が虹色に染まり輝く現象で、長い時で数分間現れ、やがて幻のように薄らいでいきます。それまで彩雲に出会った回数は数知れずですが、このような特別な場所ではじめてでした。感慨もひとしおでした。

表紙写真と「つぶやき」  
プログラム主任 白鳥 裕之



## 感謝

2009年度からスタートいたしました東山荘100周年記念募金は、2年間で10000名4千万円を超えるご協力を頂き、6月にパーベキュー場の完成をもって第1次計画をほぼ予定通り実施することができました。

サポーターとしての皆様の熱い祈りの賜物であると心から感謝いたします。今後2015年の創立100年に向かって第2次計画を立て、将来に向かって東山荘がその使命を果たすための事業を実施する予定です。さらなる皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。(担当石田)



## 季節の一品 ～厨房だより～

東日本大震災の被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げ、早期の復興を願っております。

### なす 茄子のマリネ イタリア風

#### ●材料 (4人分)

茄子 4本  
揚げ油 適量  
にんにく 1片  
バジルの葉 4枚  
パセリ 適量  
オリーブ油 120cc  
バルサミコス 30cc  
レモン汁 10cc  
塩 胡椒 適量

#### ●作り方

- 1) 茄子はヘタを取り、3cm位の輪切りにして油で揚げておく。
- 2) ボールにオリーブ油、バルサミコ酢、レモン汁を入れて塩、胡椒で味を調える。
- 3) ①の茄子を②に入れ、バジルのせん切とパセリのみじん切り、にんにくのスライスを加えて冷蔵庫でよく冷やす。(半日位)
- 4) ガラス等の器に盛り付ける。

茄子は身体を冷やす働きがあるので、夏の暑さ対策にも良いかも？！

## 東日本大震災における YMCAの復興支援活動

YMCAには世界のネットワークを通じて多くの支援とメッセージが届いています。また、日本のYMCAも震災直後より、それぞれの地で街頭募金や現地への人的派遣などの地域支援活動を開始しました。また、盛岡YMCAは宮古市、仙台YMCAは仙台市内及び宮城県沿岸地域での被災地支援活動を開始し、全国YMCAは協働してスタッフ・ボランティアの派遣、物資支援などを行っています。復興への道のりは阪神淡路大震災の何倍もの期間と労力が必要といわれています。

### 東山荘の震災支援活動

#### 被災者の受入事業

福島方面から避難してきた方の受入を致しました。原発問題の影響を考えての避難で、家族単位で延泊者数92名がご利用され、その後新しい住居が決まるまで滞在されました。

#### 今後の東山荘の活動

各方面から支援を頂き、被災者の方が引き継いで東山荘をご利用いただけるプランがございます。また更に、被災者対象のプランを準備中です。詳細決定次第、ホームページにて告知いたします。



YMCAは長期的なビジョンを持ち、人と人をつなぎながら息の長い活動を展開していきます。

#### 職員の現地派遣及び 現地報告会等実施

主に岩手県宮古市の盛岡YMCA宮古ボランティアセンターに職員を派遣しています。支援活動経験者が、映像などを使った被災地報告やボランティア講座などを開催することも出来ます。どうぞお問い合わせください。



### 震災ボランティア 活動報告

盛岡YMCA宮古ボランティアセンターに計3週間派遣された経験から感じたことを報告致します。(もう一名、プログラム担当建築業も8日間派遣されました)

宮古ボランティアセンターは、日本基督教団宮古教会が津波で被災(会室内1、2m浸水)しながらも、森分和基牧師が一人で近隣支援に奔走し、やがて盛岡YMCAと連携して設立されました。3月下旬より本格的な地域支援活動へと発展し、協会を活動本部としてヘッドロ除去、引越し手伝いなどの活動を展開しています。

全国のYMCAから人が派遣され、また関東圏の山登りの方達とも協力関係を持ちながら



から教会で寝食を共にしつつ、支援活動を行っていきます。(詳細はブログ「被災地にクライマーを送る会」をご覧ください)

また、岩手大学の協力の元、チャーターバスで多くの学生が共に活動しています。

ボランティアセンターの目的は「東日本の方々、日常に戻するための支援」です。作業が第一ではなく、顔の見える関係を作りながら、現地の方々から少し元気がなってもらえることは何かを模索しながら、活動を積み重ねてきました。

私は阪神淡路大震災のときに神戸YMCAスタッフとして、震災復興活動を体験しました。その時は4〜50キロの範囲で約30万人が被災しましたが、今回は約400キロの範囲で約40万人被災。死者行方不明



者は約4倍の規模で、まだ8千人弱の方のご遺体さえ見つかっていません。津波の圧倒的な破壊力は、想像を超えるものでした。東北の方たちは我慢強く、心優しい方が多いです。苦しむ悲しみも心の中に押しとどめ、ボランティアに「ありがとう」と頭を下げる方たちです。早く地元の方によるボランティアセンターの活動が確立すればと、強く願っています。子ども達、高齢者、障害者のみなさんへの息の長い支援が求められます。ともに祈りを合わせ、考え、行動しましょう。

(担当 佐久間・榮紫)



編集後記震災は、「当たり前」と感じていたことが、実は奇跡の連続であることを再認識する機会となりました。普通に暮らせることに感謝し、隣人に心を寄せられる人でありたいと願っています。